

令和元年 飯田市教育委員会 8月定例会会議録

令和元年 8月20日（火） 午後3時開会

【出席委員】

教育長	代田 昭久
教育長職務代理者	北澤 正光
教育委員	伊藤 昇
教育委員	三浦 弥生
教育委員	小澤 由美子

【出席職員】

教育次長	今村 和男
学校教育課長	桑原 隆
学校教育専門幹	高坂 徹
生涯学習・スポーツ課長	北澤 俊規
文化財担当課長	馬場 保之
市公民館副館長	秦野 高彦
文化会館長	棚田 昭彦
中央図書館長	瀧本 明子
美術博物館副館長	池戸 通徳
歴史研究所副所長	小椋 貴彦
学校教育課長補佐	滝沢 拓洋
教育指導主事	牧 友博
教育指導主事	塩澤 裕美子

日程第1 開 会

○教育委員長（代田昭久） 改めまして皆さんこんにちは。ただいまより令和元年8月定例会を開会したいと思います。

本日もよろしくお願いいたします。

日程第2 会期の決定

○教育委員長（代田昭久） 日程の第2、今月の定例会を本日1日とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

日程第3 会議録署名委員の指名

○教育委員長（代田昭久） 日程第3、会議録署名委員の指名。今月の会議録署名委員、北澤正光教育長職務代理者、よろしくお願いいたします。

○教育長職務代理者（北澤正光） はい。

日程第4 会議録の承認

○教育委員長（代田昭久） 会議録の承認、7月の定例会分ですが、承認よろしいでしょうか。
（承認の意思確認）

○教育委員長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

日程第5 教育長報告事項

○教育委員長（代田昭久） 日程第5 教育長報告事項。

私のほうからA4 1枚で用意をさせていただきました3点よろしくお願いいたいというふうに思います。

まずは、教育委員の任命ということでお伝えをしたいというふうに思います。小澤由美子委員が、来る10月8日をもちまして3年の任期が満了いたします。この間、本当に小学校PTA副会長、中学校のPTA代表を経由しながら、そこで培われた知見を十分に生かしていただきながら建設的なご意見をたくさんいただいたなあというふうに思います。

「ありがとうございました」を言うにはまだ早いので、あと任期満了、お願いいたいというふうに最後お願いいするわけでありませんが、今月の27日、第3回飯田市議会定例会で、議案第102号として、小澤教育委員に代わる新しい教育委員として上河内陽子氏を上程した

いというふうに考えております。

上河内さんは、現在、社会教育委員であります。また、飯田市歴史研究所市民研究員や環境教育専門委員として社会教育分野で活躍されております。今後、飯田市教育委員会としては信頼できる方であるということを考え、議案を出したいというふうに思っていますので、よろしくお願いいたします。

2番目、「学校に馴染めない子どもたちへの対応について」ということで、私のほうからさせていただきたいというふうに思っています。

飯田市のいわゆる学校、教室に馴染めない子どもたち、不登校の子どもたちというのは、率としては高止まりの状況で、飯田市教育委員会としては大きな課題であるという認識をしております。

その中で、飯田市だけで考えるのではなく、県教委との連絡、また、協働的に解決をしていこうということで、県ともアプローチをしているわけですが、8月の3日、長野市で政策対話ということで、県と県教育委員会と、また、各地域で不登校対策に取り組んでいる方々約30人を交えての政策対話ということに出席をさせていただきました。

基本プレゼンテーションとしては、飯田市と、ここに資料をつけさせていただきましたが、「はぐルッポ」という松本の子育てのNPO法人です。その話も基調講演として非常に良かったし、それぞれがそれぞれで本当にいろんな形で取り組んでいるんだろうなあというふうなのを実感できた本当にいい機会になったなあというふうに思っています。

その中で、飯田市としては、中間教室に指導員としてお勤めいただいている大澤 徹先生とご一緒に、中間教室の今後のあり方ということで少し詰めた話をさせていただきました。

こちらのほう、資料の5ページ・6ページに書かせていただきましたけれども、目指す方向性としては、学校や教室に馴染めない児童生徒を問題行動としてとらえないんだと、その子一人ひとりを対象にした選択の新しい学びをつくり、社会的自立に向けた選択の支援をしていこうというようなことを大きな方向としています。

ただ、その一方で、じゃあもう一歩突っ込んでいくと、個の自立、確立のための学び場であり、さらには自分勝手なことをすればいいという学び場でもないので、お互いがお互いを認め合う、協働して課題を解決するための力をはぐくむような学びの場ということを方向性として作っていきないうふうに思っています。

これはまだかなり理念に近いので、6ページ目が少し各論に落とした「5つの方向性」として、学ぶケースや内発的動機、つまり自分で何かしたいということを尊重しながら、いつでも、どこでも、どこからでも学べる仕組みを構築する。で、フェイス・トゥ・フェイスの

リアルな学びと、さらにこれからのテクノロジーを融合したような学び、そして、学習履歴を獲得するだけじゃなくて、習得するために人工知能教材を上手く活用していくこと。

さらには、地域社会に生きていくということを考えると、地域社会との接点をどう作るのか、地域住民と連携した自然体験や職場体験の学び。

さらには、これは県教委と連携する非常に大きな意味があるんですけども、勉強してもやっぱり評価をしていかないと進学に不利な状況が出てしまいます。ですので、生徒の求めや実情に応じて、在籍校での出席や学習評価や評定をして、進路選択についてもマイナスにならないようなそんな学びも具体的に作っていかうというふうに考えています。

これはまだまだ抽象的なものなので、こういった方向性の中でいろんな形の学び場を作っていきたいなというふうに思っています。

これ、そのときに県との政策会合にいろいろな分野を持ったんですけど、飯田市の社会教育をもう一度見直すチャンスなんだろうなあというふうに考えています。

きょうも各課の課長さんいらっしゃるんで、不登校の子どもたち、今教室には馴染めない子どもたちが、例えばです、この前の美博まつりのような何かアイデアがあったら行きますよね、こういうことで。

例えば、歴史研究所のこういう講座だったら、子どもたちすごい喜び子もいるんじゃないか。はたまた図書館、こういう本のコーナーだったらできるんじゃないか、社会教育が非常に発達している飯田市ならではの選択肢というのをもう一度見直すことが必要だろうなあ。

前回、先ほど協議会の中でも新たな中間教室というものもありましたけれども、もう一歩手前で、各地域の公民館はどうなんだろうかということも含めて、さまざま可能性をもう一度考え直す必要があるだろうなあというふうに思いました。

今までの発想の中で、不登校の子どもたちを招き入れるというのはあったかもしれませんが、具体的に結びついていなかったんじゃないかなというふうに思います。ですので、今後の関わり合いなんかでもそんな機会を作っていってほしいなあというふうに思っています。

というのも、(イ)になります。8月6日の夏体験活動なんですけれども、2コースに分かれて、「物作り講座」「自然体験講座」にそれぞれ9名ずつの子どもたちが参加をしていました。本当にいきいきとして、どちらもそうなんですけれども、これ本当に不登校の子かなあと思うくらい元気で交流したり、先生方に質問をしたりという子どもたちの様子を伺いました。

なので、こういう子どもたちが活動で自信を持つとしたら、先ほど言いましたように飯田市っているような社会教育の場があるんじゃないかなあというふうに思っていて、これ本当に4・5・6・7月から4ヶ月間かけて8月の6日をやって、このカリキュラムを考えて実行したわけなんですけれども、1年に1回の行事をやろうと思ったわけではなく、ここに何かヒントがあるだろうというふうに思っています。

ですので、ぜひ教育委員の皆さん、また、ここの定例会に参加されている社会教育携わっている課長さんたちと、「どうしたらいいのだろうか」というものをもっともっと出していきたいなとそんなふうに思っていますのでよろしくお願いいたします。

3番目、8月上旬に行われたいい大人形劇フェスタのほうが無事終了しました。今回も非常に暑い中だったんですが、大きなけが人、また、公演中止もなく終わったことは非常によかったなというふうに思っています。

実際に、市内小中学校も20校、22劇団が参加するフェスティバルになったかなあと。さらに小学校10人、中学校51人がサポートスタッフとして登録し活躍をしていただいたなあと思っています。

今後、反省を踏まえて、この人数が本当にこれで十分なのかという検証も必要かと思うんですが、少なくとも多くの市民の皆さんの力をいただきながら成功裏に終えたことを大変うれしく思います。

その中で、やはり昨年度の反省で、「もっともっと劇を演じるだけじゃなくて、スタッフや観客、そして劇人と交流が生まれるような機会にすべきではないか」というのが1つ反省として出たような気がします。

その中で、私、上久堅に行ったんですけど、国際交流、まさに交流だなあ、言葉が通じない外国の人たちと公演が終わった後も交流をして、最後さようなら、お見送りをするような機会が何か意識的に設けられているなあとそんなふうに思いました。

単なる上演を見るというだけではなくて、そういった交流をつなげていくことが本当にこの飯田市の人形劇の文化の底がたいものになるんだろうとそんなふうに感じさせていただきました。

9月の下旬に、友好都市であるシャルルヴィル・メジエール都市に伺います。単に人形劇を見てくる、AVIAMAの総会を見てくるだけではなくて、そもそも人形劇の持つ可能性、子どもたちにどういう効果があるのか、さらに人形劇だけを取り上げるのではなくて、人形劇を通じた文化交流というのはどういう可能性があるのか、ちょっと1ヶ月間準備をしてですね、意義のある訪問をしたいなというふうに思っています。

この夏、暑中見舞いで、このいいだ人形劇の学校への参加を初めてやった小林恭之助先生という前々教育長に手紙を書いてですね「ぜひ教えてください」というような手紙を出したんですが、しっかり教えていただきながら、本当に人形劇の価値というものを私自身も、そして、皆さんと一緒に共有しながら新しい今後の人形劇を作っていきたいなとそんなふうに思いました。

私のほうからは以上です。

何かご質問等あればお願いします。

よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

日程第6 議案審議（3件）

○教育長（代田昭久） それでは、日程第6、議案審議に移ります。本日の議案審議は3件になります。

議案第43号 飯田市就学相談委員会委員の任命について

○教育長（代田昭久） それでは、議案第43号「飯田市就学相談委員会委員の任命について」、お願いします。

桑原学校教育課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） それでは、議案第43号「飯田市就学相談委員会委員の任命について」お願いいたします。

飯田市の相談委員につきましては、6月の定例会で任期が変わって2年任期ということで任命いただいているところでございますけれども、福祉関係の行政機関の職員として任命していただいていた「こども家庭応援センター」の就学相談支援員が都合により退職されたということで欠員が生じたため、議案書記載のとおり、後任の職員を任命したいというものでございます。

任期につきましては、前任者の在任期間というふうに定められておりますので、令和元年3月31日までということになります。

以上でございますよろしくお願いいたします。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

議案第43号の説明がありました、ご質問・ご意見等ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長（代田昭久） それでは承認ということでお願いします。

議案第44号 飯田市公民館運営審議会委員の任命について

○教育長（代田昭久） 続きまして、議案第44号「飯田市公民館運営審議会委員の任命について」
お願いします。

秦野市公民館副館長お願いします。

◎市公民館副館長（秦野高彦） 公民館運営審議委員の委嘱についてお願いをいたしたいと思いま
す。議案第44号をごらんください。

本議案は、公民館運営審議委員の欠員が生じたため、飯田市公民館条例第6条第2項に基
づき教育委員会の委嘱を求めるものでございます。

今回の欠員につきましては、選出団体からの申し出によりまして、当該団体の選出委員を
変更するというものでございます。

委員の任期につきましては、飯田市公民館条例第6条第3項により、補欠の委員の任期は
前任者の残任期間とされておりまして、今回は令和2年3月31日までといたします。

委嘱をいたします委員は議案をごらんください。

よろしくをお願いします。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

ただいま、議案第44号の説明がありましたが、ご質問・ご意見等ありますでしょうか。
よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長（代田昭久） それでは、承認ということでお願いいたします。

議案第45号 令和元年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準要保護児童生徒援助費補助 金関係）の認定について

○教育長（代田昭久） 続きまして、議案第45号「令和元年度飯田市就学援助費支給対象者の認
定について」お願いします。

桑原学校教育課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） それでは、議案第45号「令和元年度飯田市就学援助費支給対象者
の認定について」お願いをいたします。

認定対象者につきましては、別冊で用意をいたしましたとおりでございます。それぞれ記

載いたしました認定要件にてご認定をいただきますようご提案申し上げます。

よろしく願いいたします。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

議案第45号の説明がありましたけれども、何かご質問・ご意見等ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、承認ということでお願いいたします。

以上をもちまして、今月の議案審議を終了させていただきます。

日程第7 協議事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、日程第7、協議事項。

今月の協議事項2点ありますのでよろしく願います。

（1）教育課程研究協議会開会式の対応について

○教育長（代田昭久） まず、（1）「教育課程研究協議会開会式の対応について」、願います。

高坂学校教育専門幹、願います。

○学校教育専門幹（高坂 徹） それでは資料No.1をごらんください。

まず、1枚めくっていただきまして日程のほうであります、上の小学校、10月17日木曜日、それから、下の中学校ですが、9月の5日木曜日ということとなっております。学校名、教科名、出席者等ございますので、また何かありましたら、また後から滝沢学校教育課長補佐のほうにお話ください。

前に戻っていただきまして、挨拶文の例でございます。

まず、最初に時候の挨拶を入れていただきまして、最初の段落ではご参加いただきましたことの感謝。2つ目の段落といたしまして飯田市教育委員会の教育ビジョン、小中連携・一貫教育を進めたい、学力向上「結い」プランを掲げているという点。3つ目の段落ですが、すべての小中学校で学校運営協議会を設置した飯田コミュニティスクールが3年目を迎えて「社会に開かれた教育課程」の具現化を目指しているという点。4つ目の段落で、研究協議会の目的につきまして、新学習指導要領の実施、あるいは移行期間中であるようなこと、それから、参加する先生方一人ひとりの指導力の向上を目指しているという点等を述べております。

最後の段落になりますが、指導をしていただく指導主事の先生、それから、会場提供をし

ていただいた学校への感謝を述べていただきたいと思います。

なお、教育委員の皆様方には、学校名、それから指導主事名を入れたものを後日お送りしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいまの説明について、何かご質問・ご意見等ありますでしょうか。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 今回のこの挨拶文のことですが、2段落目の「地育力」のことです。このビジョンはいいんですが、要するに、飯田市外の先生方も参加される教育課程研究協議会なので、飯田市の先生方には「地育力」と言っても通じるんですが、飯田市外の皆さんに、耳で聞いただけで「地育力」と言われても、多分皆さんが思い浮かべるのは、知育・徳育の知育のほうの力というふうに思い浮かべるのが大多数で、この造語自体が全員に認知されているものではないので、このビジョンを言った上で「地育力とは」と言ってちょっと注釈を入れていただけると市外から参加されている先生方にはわかりがいいんじゃないかというのが1点です。

それから、細かくて申し訳ないのですが、4段落目のところの「ただ今〇〇先生にご挨拶いただきました新学習指導要領の告示を受け」から後のところの3行、4行ぐらいの中身について、多分このまま読んでいるのを聞いても、分かりづらいと思うので、もし整理できるなら、「小学校では来年度から、中学では再来年度から完全実施となります」と、「ついては、その移行期間、大詰めを迎えているのでこういう機会を持つのはとても大事だ」というぐらいにあっさりしてもらってもいいんじゃないかと思います。

というのは、参加されているのはほとんど学校の先生方で、今、移行期間で来年から完全実施になるということは承知しているから、ここまで丁寧に説明しなくてもいいのではないかと思います。

○教育長（代田昭久） じゃあ私も補足して、やっぱり、むしろ課長補佐等もしゃべらなきゃいけないことも考えると、知っている人にあまりしゃべらなくてもいいのかなというふうに思いますので、そこの部分の簡略化をお願いしたいなと思います。

ほかいかがでしょうか。

伊藤教育委員、お願いします。

◇教育委員（伊藤 昇） 私も何かこれ、もう6年くらいやっているのであれなんですけれども、飯田・下伊那の方がいる中で、飯田市教育委員会のことを言っているのかと、当時、聞いたことあるんですね。小林正佳さんが「いいんじゃない」、と飯田市教育委員会のことを言っ

でも良いのではと言われたのでそれはそれでいいと思うんですね。それが1つと。

それから、これすごく文字数が多いので、これを私かいつまんで、かいつまんでって大変失礼なんですけど、まあ案だからいいと思うんですけど。半分くらいの量にして、この文自分で作っている。これと全く違うというわけではないですけども、自分なりにしてやっています。

案を作らなきゃならないので、こういうのを一応テーブルとして出していただきありがたいなあということなんです。私、年数が長いのでそうやって今までやってきました、良いか悪いかわかりませんが、一応報告します。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

これを一語一句しゃべってくれというものではないので、趣旨は違えず、また、ご意見いただいても全くかまわないと思います。

◇教育委員（伊藤 昇） 過去5年間あるので、そこを入れ替え入れ替え。もちろん新しいのも入れますが。一応確認したということ。

◇教育委員（小澤由美子） 頭が悪いのでそのまま読ませていただくんですけど、でも、これがあることによって、「あ、こういうことなんだ」というのがわかるのは私たちには学ばせてはいただいているんですけど、それとは別に文章を簡単にしてもらおうと。

○教育長（代田昭久） それでは、学校教育専門幹よろしいでしょうか。

はい、ありがとうございました。

（2）「中学生期におけるスポーツ活動のあり方」について

○教育長（代田昭久） それでは続きまして、「中学生期におけるスポーツ活動のあり方」について説明をお願いしますが、これは桑原学校教育課長、教委幾次長がいないので、説明は。

◎生涯学習・スポーツ課長（北澤俊規） この議題とは別になりますが、皆さんのお手元に「中学生期のスポーツ活動に関する意見交換会開催について」が行っているかと思いますが。令和元年度8月25日の2時から、松尾公民館ホールで開催します。

こちらのほう、いわゆる部活動のあり方、ということは飯田市のほうで示した案について、来年からこれに向けて検討していくということですが、これについてはさまざまな立場の皆さんと話し合い、考える機会として開催するということで参加をお願いしたいということで通知をつけております。

それで、当日のですね、進め方、企画メモ、それからめくっていただいて、意見交換会のレイアウトが出ております。そういった形で進めさせていただきますのでお願いしたいと思

います。

特に企画メモの中で、一部では「中学生期スポーツ活動の充実に向けた取り組みについて」というのをテーマにしまして、教育長のほうから飯田市の考え方を示させていただいて、それから、4地域が今取り組んでおりますので、総合型スポーツクラブといった形での、あるいは地域での特色、取り組みがありますのでそれを4地域の発表がある。

それから、プロスポーツから見た取り組みの可能性ということで、プロ3競技団体、バレー、サッカー、バスケット。

バレーについては、「VC長野トライデンツ」のプロチーム、それから、サッカーについては、「松本山雅FC」、それから、バスケットについては、「信州ブレイブウォリアーズ」、サッカーとバスケットについてはそれぞれ社長さんお見えになって、今のビジョンとかそういうものをお話いただくということと、地域との連携とかそういったことをお話をいただくということで。

2部の意見交換に入った段階で、地域の関係者、それからプロの関係者、それから教育長を交えまして、次長がコーディネーターということで意見交換をするという機会を設けますので、ぜひご出席のほうよろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、この資料の一番最後「プロチームの社長を迎えて」と、飯田市教育委員会、中学生期多様な選択肢へ25日の意見交換会がありますので、こういった形で会議が開かれるということですので、ぜひご出席をお願ひしたいということをおまづはご紹介をさせていただきますのでよろしくお願ひします。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

今回、協議事項ですので、今課長が中座してしまいましたけれども、趣旨としては、前回の総合教育会議が時間切れになっちゃいました。私の記憶では20分くらいしかこの議題について話ができなかったもので、その延長だというふうにとらえていただいて、まだしゃべり切れなかったこと、また、その間でこんなふう考えたことというのを、定例会、公の場でディスカッションしたいなあというのが今回の協議事項にある趣旨であります。

今、課長がお話していただいたとおり、25日に向けては、この4月から各競技団体もしくは学校へ説明会行きましたけれども、一同が集って「こんなふうやっていきたい」というものを市が説明し、それぞれ意見交換の場になるかなあというふうには思っていますので、出席のご案内はさせていただいたとおりですが、その前段階として、ぜひ意見交換会できればなあというふうには思っておりますのでよろしくお願ひします。

今は協議事項です、ごめんなさい。協議事項としてご意見いただければなと思ひますので

お願いします。

小澤さんのほうで、保護者の皆様に近い視点で、今、何か議論になっているとか、こんな状況であるとかというのはありますか。

◇教育委員（小澤由美子） この間、総合教育会議でお話させていただいた以降は、ちょっとみんなと話をする機会がなかったのではないんですけども、この間の会議のときに、「県下の中体連とかの大会自体を何とか」という話をしたときに、その後で市長さんが、「例えば、大会をして結果を求めるといふかそういうふうだったら、市で大会をつくれればいいんじゃないか」みたいな話をされたと思うんですけども。

そういうのも、例えば、県がどういうふうの中体連とかの関係をしていてくれるかにもよるんですが、中学校ごととか、今回、この先に見ているそのプロチームとのという関係ではなくて、例えば、東と西を合同にしたバレーボールチームとか、そういうふうなチームを作って、これとは別で部活動としてやったときに、何かそういう大会みたいなのを市でやっていくとまた励みになるのかなあというのを思ったり、交流もまたその部活動の延長のスポーツを考えたものだと思うんですが、そこじゃなくても楽しんでいる部活動の子たちのやっぱり結果を求める場所というのにも必要になってくると思うので、中体連とは別の何かいい大会とかも設けたらいいのかなあと思います。

○教育長（代田昭久） なるほど。

◇教育委員（小澤由美子） 上手に言えませんけど。

○教育長（代田昭久） 中体連に、その部活動の大会そのもののあり方の見直しですね。

◇教育委員（小澤由美子） 中体連がどういうふうになっているのかわからないんですけど、例えば、上を目指すとしたら、合同チームだとどこまではいいとか、いけないとか、いろいろあるじゃないですか。もしそれいけないんだったら、違う大会があってもいいのかなあと思ったりもするんですが。

○教育長（代田昭久） 言わんとしていることをわかったような気で解説すると、いわゆる中体連待ちになっちゃうと、「こういう仕組みだとそれは合同部活にはなりません」とかって上から言われちゃうんですよ。

例えば、端的な例で、去年はA中学校とB中学校はいいけど、今年はA中学校B中学校だめで、AとC学校が組みなさいみたいなことが上で決められちゃうというのが、子どもたちの環境としてはやはりよくないわけで。

そうしたときに、その大会のあり方を主体的に考えていくというのは必要なんだろうなあというふうに私も感じます。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 今の話と違うことになってしまうかもしれないんですが、今これから議論しようとしていることは、そもそも、学校部活動というのは、「学校の教育活動に支障のない範囲でやった時間のところで全く切り離します」と、「部活動というのはもうそこで終わりです」と。

その上で、「まだスポーツを楽しみたい」とか、「文化として広めて生涯にわたってそれをやっていきたい」という方については、学校云々という話じゃなくて、今度は飯田市なら飯田市全体とか、飯田・下伊那全体で新たなスポーツを楽しんだり、その活動する場所を作りましょうという、大きな枠組で言うとそういう枠組のことですよね。

ところが、今、「学校の部活動をもっと強くしたい」とか、「何とかしたい」とかいうその話のことで、「スポーツ文化として、学校の部活動とは全然切り離したことでもっと楽しみたい人は、多様なスポーツを楽しめる場所やそういう機会を作りましょう。これからはそういうふうにしていきましょう。切り離してやっていきましょう」というところが、なかなか切り離す発想にならない皆さんもいる。

併せて、だからそういう新しい枠組の活動をする場所を一体だれが作って、どういう人がそれを指導してくれるんだというのが、なかなか見つけられない状態にいる。そのところを、理解が図られ、新しい枠組のところに参加していただける指導者と、そういう団体も含めて探っていきましょうというのが今のこの会議。

だから、自分が聞いている範囲だと、例えば、この飯田市内でもある地区のところでは今までもこれに似たような組織があるから、A中学に在籍している子たちは、そのA地区のスポーツ関係のところでは受け皿としてやれるよというような話を聞いたことあるんですけど、私はそれをやってしまうと、結局、今やっている社会体育がただ名前を変えて、そのA中学の受け皿活動みたいになってしまうのじゃないか。今回、提案しているのはもっと広いものなんじゃないか。「手っ取り早くA地区のことをA地区の中で改善できるからいい」というふうに行ってしまうと、狭い地域の中で行ってしまっ、これがしばらく行くと、A地区、B地区、C地区とできるかもしれないけど、結局やっていることは今と同じ。例えばA地区の受け皿になっているところは力を入れて結構な時間までやるから、すごく強くなりました。そうしたら、中体連の大会等でも活躍しましたというようなところで終わってしまうのではないか。そうすると、形を変えた社会体育と変わらなくなる危険性があると思うんですよね。その辺が私の中でははっきりしていないんです。

せっかくの改革の機会だから、今考えている、学校の部活動から離れた後のスポーツ活動というのをもうちょっと広い目で見えていくことを構想していくべきだというふうに思っ

います。その辺は教えてもらいたい部分でもあります。

○教育長（代田昭久）　　お願いします。

◇教育委員（伊藤　昇）　スポーツですから、文化なら文化協会。例えば体協の中にいろんな種目があるわけですよ。最後は飯田・下伊那になるかもしれないけど。その飯田・下伊那の体協の中に、例えばサッカーとかバスケとかいろいろあるんですけど、その体協の社会スポーツ、そこにゆだねるといふか、そのジュニア部門というの、そういう。部活がなくなるわけじゃない、部活は部活なので、あくまでも延長の話だと思う。

それで、もっと燃え滾ったものがある生徒たちはそこへ行ってレベルアップ、もっと指導的なもの、もっと資格のある者もあるし、サッカー部がない学校もありますよね、「サッカーやりたい」という少年もいる。それは、部活はないんだから直接っていうことになるし。

それが例えばサッカーならサッカーだけじゃなくて、バスケットボールでも、バレーボールでも、卓球でも、体協にある種目全部そういうものに行っていけないかなあという。そういう広がり的なものを私は考えているし、恐らく教育長もそれに近いことを考えておられると思うんですけども。

○教育長（代田昭久）　　今、北澤教育長職務代理者のほうから、「市の議論の状況を」みたいな話なので、ここでお伝えするとですね、今1つ新しい考え方としては、飯田市全体を地域としてとらえようと、ここに「クラブ」という発想ではなくて「スクール」という発想ですね。そこに来て自分が技術を磨いたりとか豊かなスポーツ文化、さらにはこの運動神経強化をして、将来のアスリートとしての地盤を作るような「スクール」を作っていこうと。

そのときには、今まで、要は過去の繰り返しを失敗しないようにすると、今までやっぱりA地区、B地区、中学校区ごとでやったので、どうしても指導者が足りなくなっちゃうんですね。何かやろうといっても小さな地域にはできないという状況があるし、実際には生徒数も少なくなっている。

この現実をやったときに、この飯田地域、さらにはゆくゆくはですね、飯田・下伊那地域ってやればよいと思うんですけども、まずは飯田地域を1つの地域で考えたときにスクールというのを立ち上げて、そこに学びに来たら。

飯田を1つの地域でやったときに「スクール」だという発想があります。これは1つサッカーが今中心となって考えていただいているんですが、非常に良いなと思うのは、例えば、サッカーっていわゆるC級のライセンスを持っている飯田市の人たちが30人弱いるんだと。要は、指導できる専門家が30人弱いるので、その人たちが仮に5で割ったら6人ずつ、1日教えることも可能だ。

そのためにもライセンスの人たちは、「アザリー」とか「アディ」とか、本当に部活動とは違う活動をされている人たちです。ただ、その人たちはやっぱり大勢の、今サッカーの人数で言うと部活を離れてサッカーでやっている人たちは150人弱と聞いてました。で、部活動でやっている子どもたちを見ると150人弱なので、勢力的には半々なんですね、サッカーやっている子どもたち。

でも、30人の指導者からすれば、合計300人と、さらにはもっともっと「吹奏楽やっていたって、野球やっていたって、スクールに来てサッカーを教えるということもいいんじゃないか」というふうに言っていたという状況が、サッカーで今提案が前回ありました。「それに似たようなことは、プロチームを持っているバレーやバスケットボールでもできるんじゃないか」というちょっと話し合いの入り口まで来ているという段階です。

で、今伊藤教育委員がおっしゃるように、「じゃあ、ほかの競技でも全市型のスクールとこのができるんじゃないの」というような入り口に立っているところが今現状かなあというふうに思っています。

そうすると、先ほど北澤教育長職務代理者が言ったように、やっぱり部活動とは分けて、「豊かなスポーツ文化」という基軸になっていくんだろなあ。「中学生期のスポーツのあり方」から派生して、これは小学校でもいいわけだし、この地域の中でどうあるべきかという大きな議論になっていくので、ここのあんばいが部活動を強くするためにという若い人たちと、だいたい2回の中で、特にサッカーやBリーグを運営している方々から、「これが地方創生だよ」と言ってくれている人たちがいるんですけど、ここの振り幅が大きいので議論の集約はなかなか難しいけれども、ただ、スタート地点からすれば随分議論は深まりつつあるなというふうには感じています。

小澤教育委員、お願いします。

◇教育委員（小澤由美子） 前回、飯伊市町村教育委員会の勉強会があったときに勉強をしたと思うんですけども、なので、大きい学校は無理かもしれないんですけど、小さい学校では、例えば東京のほうでやっているという一例がありましたよね、「きょうはみんなで何をしよう」みたいな部活動というのもありだとやっぱり思っていて。

例えば、「きょうはみんなでバレーボールをやろう」とか、「きょうはみんなでバスケットをやろう」ということをやっていけば、もしかしたら今までやっていなかったスポーツに目覚めた子もいて、そういう子が「じゃあ」といって、そのさっきおっしゃったスポーツスクールのほうに行って開花する可能性もあるので、そういうのもありだなと思うんですけども、そういうことをするには、これから部活動のあり方とか、先生の考え方とか、大会のあ

り方とかも変えていかないと、そういうこといいんですけれども、どうやって進めていったらいいのかなというか、何か今ちょっとふと思ったんですけれども。

いいなあとは思うんですけれども、小学校の延長じゃないけど、「きょうはみんなで鬼ごっこをしよう」とか、「きょうはみんなで器械体操をやろう」とかって、いろんな体を鍛えられていいと思うんですけれども、それをするにはどういうふうにしていったらいいのかなあというのをふと思ったんですけど、教えてもらいたい。

○教育長（代田昭久） 私の個人的なジャストアイデアですけれども、小学校の場合は、少年スポーツ団がありますよね、それが競技ごとやっています。それも同じようにスクール形式にして、いろんな子どもたちが「じゃあきょうはサッカーをやしましょう」とか、「きょうは何かやしましょう」というのは、今、中学校を入り口にはしていますけれども、そういった柔軟な発想の中では生まれてくる可能性は出てくるだろうなど。

◇教育委員（伊藤 昇） あと、さっきサッカー部がない子どもたちも、そういう対応できるわけだね。それから女子でサッカーしたいという人だっているよね。そういう人の対応もできるし。

あと、中学でそういう部活は部活だとしても、スクールですか、これから作ると思いますけど、社会スポーツのほうができれば、今度、高校行ったときにその後つながっていくし、別に高校の部活へ入ってもいいんですけれども、そういう考え方もできるし。

あと、「中体連が都市大会廃止」って信毎出ましたよね。2021年をめどに県大会全競技云々でやって、ここ廃止する方向へ県教委のほうから出ているんですね。

だから、それも一応県の流れとしてはそういう方向へ進むということなので出ているので。熱意のある親御さんはちょっと不満なのかと思いますけれども。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 今のお話、ちょうど私も発言しようと思った部分ですけれども、結局、大会数、試合数が減るということですよね。例えば下伊那地区予選会をなくして、いきなり南信地区大会から始めるということですよね。

◇教育委員（伊藤 昇） そうですね。

◇教育長職務代理者（北澤正光） だから、これは子どもたちにとっても負担軽減なんですけど、先生方にとっても負担軽減、結局、下伊那地区大会を運営する部分がそっくりそれはなくなる。実際、今までの例でいっても、チーム数が減ってきているスポーツは、下伊那地区大会をやっても、実は全チームがその後また南信大会へ行く、早い話が、下伊那地区大会は、下伊那地区での順番決めと練習試合の延長のようになっているものもあった。そういうところで試合数や負担を見直していくということだと思います。

- ◇教育委員（伊藤 昇） そういうことだと思います。「21年度をめどに」と書いてあります。
- ◇教育長職務代理者（北澤正光） みんなで知恵を少しずつ絞り、現状に課題があると見てきた中で、それぞれの一番改善できそうな課題のところから動き始めてきているということは確かですよ。
- ◇教育委員（伊藤 昇） 中体連もそういうふうに手をうってくれているので、飯田市の社会スポーツのモデルというのが。
- ◇教育委員（小澤由美子） ということは、部活動は部活動として存続を決めておかないといけない。
- ◇教育長職務代理者（北澤正光） ええ、それはそうです。そうではあるが、今までのように学校での時間が終わった後、また社会体育と称して別の場所に集まって、ほぼ同じメンバーが、かなりきつい時間までやっていたというような過激なことは、だんだん見直していきましょうということになっていくんじゃないでしょうか。
- 教育長（代田昭久） 部活自体はなくならないし、教育活動的にも良いものっていっぱいあると思うんです。ただ、現状の課題としては、たびたび言っているように600時間以上やっていると、これは幾ら何でもやり過ぎだし、先生方の本来の目的という授業をちゃんとやるというふうにしてほしいという側の問題もあるので、そういった意味で適正化しつつ、さらに全然別のベクトルとして、この地域のスポーツ文化ということも一緒に考えていきたい。
- さらに言うならば、先を見据えたスポーツ以外の文化系についても視野に入れていく必要があるかな。
- 教育委員（伊藤 昇） 吹奏部とか合唱班も入るっていいことですね。もっと言うとダンス系でもいいかも。今度は囲碁とか将棋とか、あらゆるものもあるんですよ、そういうところまで中学生。いろんな才能のいろんな持ち主があるので、そういう方向へ結びつけて、興味あったり関心あったり、それが続くかどうかはともかくとしても、その芽を大事に育ててやって、スポーツ以外の文化の面でもいろんなことができるんじゃないかな。社会スポーツ、社会文化、名前はちょっとわからないですが。
- それが今度は社会、今度は高校もそうだし、今度、社会へ出ていったときに、今、働き方改革で教師のこと言ってますけど、教師ばかりじゃなくて一般の我々の世代もすごく有給休暇とかいって、家庭と職場、家庭と、生徒たちは学校だけど、もう1つの場所をつくる。そういうときにこういった流れをつくっていくと、「サードプレイス」とよく言われるんですけど、こういうライフスタイルの中でもう1つのものがあると非常に2本じゃ柱立たないけど、3本だと柱が立つというような考え方があって、そういうところからスポーツばかりじ

やなくて、文化系の趣味やいろんなものを持ってそういうのを持っていると、ジュニアのころからそういうふうで育っていくと、そういう社会になっていったときに家庭と職場を往復しているんじゃないでなくて、もう1つのものを持っていると人生豊かになるし、という意味で思っています。

○教育長（代田昭久） 三浦教育委員、どうですか。

◇教育委員（三浦弥生） お話聞くのが精一杯で、情報を聞かせていただいているという感じではあります。学校というところのクラブ活動というものを整理するといったところで、今度は生涯学習といったところで、そういった文化活動の一部として、飯田市について、そういった活動を持ってくるんだなとそういうところの今理解でいます。

今、民間にということではなくて、市として、生涯学習の中でそれを置いていくんだなというような、そんな認識をしましたがよろしいですか。

○教育長（代田昭久） 最後「民間に」

◇教育委員（三浦弥生） そうです、例えばスイミングスクールであるとかそういったものとは別で、飯田市を地域として、飯田市で音頭をとって、こういったものを生涯学習として位置づけていくんだなというところを今理解したところではあります。

○教育長（代田昭久） ただ、言葉尻を非常に気をつけると、「民間も」ですね。

◇教育委員（三浦弥生） あ、「民間も」

○教育長（代田昭久） 要は、じゃあスイミングスクールは悪かというとは全然そんなことはなくて、それをもっといろいろなノウハウもあるし、実際に山雅もれっきとした法人格ですので民間企業です。そういうところともやっぱり力を合わせるということが。

◇教育委員（三浦弥生） 連携して。

○教育長（代田昭久） 連携してやるのが大事なんだなあと。

それでは、25日は松尾公民館でありますので、ぜひご出席できる方は出席いただければと思いますのでよろしくをお願いします。

日程第8 陳情審議

○教育長（代田昭久） 続きまして、日程第8、陳情審議。今月の陳情審議はございません。

日程第9 その他

（1）教育委員報告事項

○教育長（代田昭久） 日程第9、教育委員報告事項。

教育委員の皆さんの中から報告事項あればお願いいたします。

三浦教育委員、お願いします。

○教育委員（三浦弥生） 人形劇フェスタの感想をお願いしたいと思います。

最終日に伊賀良公民館のほうに行ってきました。伊賀良小学校の元気いっぱい4年2組の人形劇を見させていただいています。4年2組の皆さんたちが演じるそういった中で、幼児の皆さんたちが本当に一生懸命座って見ている姿、あと地域の皆さんたち、親御さんでもすし、おじいちゃん、おばあちゃんと思われる方々、あとはお友達と思われる人たち、たくさんが本当に会場に入って人形劇を見ている姿を見させていただいています。

ああいったたくさん地域の皆さんに見守られながら自分たちで表現していく活動というものは、本当に大切だなあということを感じています。

その後、劇人の皆さんたちから「霊犬早太郎」ということで、今回の人形劇フェスタの最終の演目ということで、そちらのほうを見させていただいております。「霊犬早太郎」、この教育委員になってから磐田市の教育委員の皆さんとの交流もさせていただく中でいろんなことを学ばせていただいています。そんな思いもありまして見ております。お2人の方生演奏で、1人の方が語りと人形ということでの人形劇で、良いものを見させていただきました。

そんな中でも、三遠南信教育サミット、7月19日にありましたけれども、そのときに講演で「三遠南信をつなぐ交通と人々の暮らし」、伊坪先生のほうからご講演をいただいております。

三遠南信をつなぐ交通ということで、天竜川を下って物を運んでというようなところもお話いただいたわけですが、早太郎という犬が川を下って静岡のほうに行って、霊犬早太郎と、ここでできたものが静岡で財を成してというところの1つの物語だったのかな、なんていうところも感じながら人形劇フェスタ楽しく見させていただきました。

ありがとうございました。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ほかになにかありますでしょうか。

北澤教育長職務代理者、お願いします。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 似たような話になりますが、この夏休みを挟んだ辺で、市内の各地区で公民館やまちづくり委員会が中心になりながら、名前はそれぞれで納涼祭とかいろいろになっていると思うんですけど、私たちの地区なんかでもあったんですが、私たちの地区だと年々小学生が増えていて、今年の小学校の入学生は、小学生42名の内、12名は新生ととかという感じで、新しい若い世代の皆さんがお家を作って入ってきていただいている

ような地域なんです。

そういう若い世代の親御さんと小学生などが入ってくる中で、地域で長く伝わっている太鼓サークルの皆さんが、小学生たちを土曜日とか日曜日の決めた時間で何回か指導してくださって、納涼祭で小学生全員による太鼓演奏というのがあるんです。

小学生が演奏したりしながら地域の人とまじわるだけでなく、自分の親御さんが地域の大人の中に混じって活動したり、いろんな演目を演じているところを子どももその場所を共有しているというその空気感というんですか、それってすごく大事なものだなど。要するに、子どもにとっては、まさにふるさとの原風景だと思うんです。

例えば、その子のお父さんが、若干お酒などをいただいたりしている状況であっても、自分の親が地域の大人の中に混じって一緒に楽しそうにやっている姿を見ているその子ども、子どもにとっては、それはすごい安心感とかがあってなっていると思うので、そういうことが自然の中でできている、こういう機会はこれからも大事にしていきたいと思います。そこにも出てこられない子どもや、その親御さんがいるとしたら、地域の公民館や地区でも、そういう方が少しでもその雰囲気の中に入って行かれるような、工夫や働きかけを各地域地域でやれるといいなと思いました。

そんなことの1つの例として、座光寺公民館の今年の取り組みを聞くと、小学生全員に200円のクーポン券を配った。納涼祭に地域の壮年団の皆さんなどが運営している屋台、その屋台でだけ通用するクーポン券、だから、壮年団の皆さんが作っている焼き鳥とか唐揚げとか、いろいろあるのを200円のクーポン券で2つくらい買えるというような取り組み。お金で誘うわけではないけれど、そういうことで「出ておいで」を工夫してやっているという話を、座光寺の公民館長さんからお聞きました。自分の地区でも参考にさせてもらいたいなあとということを思ったりしました。

それから、もう1点。きょうも午前中、私、鼎小中学校の全員の先生が参加されている「授業づくり講座」とかいう名前がついていたんですが、そこへ行って1時間半ほどお話をさせてもらってきました。鼎中は明日から始業式で、始まるというその前日、「改めていよいよ長い2学期が始まるんだけど、小中心をそろえて授業づくりをみんなでやっていきましょう」というような機会だったと思います。

先生方が熱心に参加されていたので、こちらにも演習みたいなことを入れながらやらせてもらったんですけど、先生方に伝えてきたことは、「本当に子どもたちが伸びたいと思っている小さな変化を受け止めてほしい」という、「そのための働き方改革なんじゃないですか」というようなことでお話をしてきましたが、ここ数日の間に市内の学校もほとんど始まると

思うので、ぜひ学校の先生方にも、子どもたちにも頑張ってもらいたいと思って帰ってきました。以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ほかは、いかがですか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（2）教育次長報告事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、教育次長報告事項。

◎教育次長（今村和男） ありません。

○教育長（代田昭久） はい。

（3）学校教育課報告事項

○教育長（代田昭久） 3番、学校教育課報告事項。

桑原学校教育課課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） それでは、きょうは1学期における教育指導主事の活動報告ということで、指導主事のほうからご報告をさせていただきますのでよろしく願いいたします。

○教育長（代田昭久） 牧教育指導主事お願いします。

◎教育指導主事（牧 友博） お願いします。

まず、資料N o. 2と書かれてあります資料をお願いいたします。ICT教育推進について、1学期のまとめを簡単ですが報告させていただきます。

1. 学校訪問ですけれども、今年度は全小中学校を2ヶ月くらい掛けて訪問させていただきました。それぞれの取り組みや課題のことをお聞かせいただきました。

先生方、頑張ってICT活用にチャレンジしてくれている先生方が多くて、昨年度に比べて機器の操作等に慣れてきているなあということを思います。

ただ、特にモデル校では、この事業4年目に入ったわけですけれども、それまで主導的に取り組んでこられた先生方の異動の時期というのがそろそろ始まってしまっていて、ちょっとその研究の質であるとか、環境の維持だとか、ノウハウの継承というようなそういうところに不安を感じている学校が出てきておりますので、指導主事としても支援を行っていききたいなあというふうに思います。

機器の導入については、2つ目になりますけれども、LD等通級教室で学ぶのは週に1日

程度、そういうところで週に1日ぐらいの伊賀良小学校、松尾小学校、旭ヶ丘中学校といったところの通級教室で学んでいる子たちがいるんですけども、その子たちタブレット等をそこそこ使った勉強というのはできているんだけど、4日間、原学級で学ぶというようなことがあって、そういうのを解決したいということで機器の整備と、例えばその子たちが原学級でもタブレットや何かを使って勉強できるようにということ、そういう整備を進めていきたいというふうに考えております。

3つ目の研修会については、そこにあるような教育支援指導主事の先生方の研修、それから小学校を対象にプログラミング教育の担当者研修会というのを行いました。今後も学校別に学校対象で研修を行っていく予定です。所感等をご確認ください。

最後、授業への助言等ですけども、2学期に授業公開に向けた支援というのを何件かご依頼いただいております。

今年、全校を回らせていただいたので、短い参観を含めれば80人ぐらいの先生方の授業を見させていただきまされたけれども、だいぶ慣れてきている反面、あまり「方法論」ばかりにいつてしまうと、もともとの授業、教材研究だとか、子どもの見取りだとか、そっちが先なんだよということを伝えたいんですけども、でも、機械を入れている立場上、できれば使ってもらいたいというところがあるので、どう使えるかちょっと悩みながら先生方と接しているところであります。

裏面以降は、今年どういうところにICT活用、どういうところに力を入れていくか、「飯田市の学力を『結い』プランによせて」という形で各学校にお伝えしたものの、それから、学校訪問の感想用紙、懇談できなかった先生方には書面でお返しさせていただいているので、幾つかを掲載させていただきました。またお読みいただければと思います。

ICTについては、以上です。

○教育長（代田昭久） 塩澤教育指導主事、お願いします。

◎教育指導主事（塩澤裕美子） 資料2の15ページからをごらんください。

外国語教育の推進に関わる取り組みとして、授業づくり支援を目的とした学校訪問を全小中学校のほうで講習会を行いました。

小学校では、中学年・高学年両方の授業の様子、中学校では、小学校で外国語を経験して中学に入学した1年生の授業の様子を参観いたしました。

先生方には、小3から中3までの7年間を通し、自分の気持ちや考えを伝えようとすることができる。また、伝えられる子どもたちの育成を目指し、英語でのやりとりが授業の随所で行われる授業づくりが、これからますます大切になることをお伝えしてまいりました。

小学校では、担任の先生を中心に、学級の児童がいかに関心を持てるか工夫を凝らした活動を考え、積極的に英語を使って授業を進めておられました。先生方の積極的な姿勢に習った子どもたちが間違いを恐れず自分のことを伝えてみようとする姿ははぐくまれている様子が多くの学校で見られております。

これから、より自信を持って日常的に取り組めるため、そして、何より小学生が英語を使ってやりとりすることは楽しいと思える授業のため、引き続き2学期も支援を継続してまいります。

2学期は、各校での実態とニーズに合わせた支援のあり方をそれぞれ相談しながら決定し、先生方が自信を持てるよう共に授業づくりを行いたいと考えております。

中学校は、小学校での経験を踏まえた子どもたちを指導するという点で、大きな授業改善が必要となっております。

高坂学校教育専門幹から話もありました、全国学力学習状況調査の結果の報告にもありましたとおり、自分の気持ちや考えを読んだり聞いたりして、それを元に読める活動がこれまで以上に重要になります。

中学校の先生方には、多くの小学校の授業参観に足を運んだり、私が訪問したり録画した授業DVDを活用していただいて、授業のあり方を再考してもらえようお伝えすることや、スモールトークという、例えば「夏休みの思い出」「家族」について伝えるなど、ある話題についてやりとりをする活動を必ず2学期には継続してもらい、生徒が考えて英語を発する機会を増やすことを全学校に取り組んでもらえるよう推し進めたいと考えております。

そのために、これまで小中同時に行われていた外国語教育、ALT担当者会を別日に実施して研修を行ってまいります。また、同時に10名のALTが学校と協力して授業づくりを行えるよう月1回の研修を継続してまいります。

夏休みに信州大学教育学部教授、酒井先生を講師にお迎えして開催された研修会も、小中合わせ40名余の先生方がじっくり学習できる1日となりました。

先生方が外国語教育について、情報を更新しながら共にこれからよりよい授業をつくれましよう、17ページからのような情報を今後も発行し、2学期も共に取り組んでいきたいと思っております。

以上です。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

それでは滝沢学校教育課長補佐お願いします。

◎学校教育課長補佐（滝沢拓洋） はい、資料は22ページからになります。

きょう、教育指導主事の田中先生が公務により欠席のため、簡単に説明させていただきます。

1学期における「特別支援教育に関する学校訪問から」ということで、田中先生に1枚にまとめていただいております。この中で、特に4番の個別教育支援計画、それから、個別指導計画の作成というのが昨年度から行い出したところですが、作成は順調になされているということでもあります。

小から中、中から高への「個別の教育支援計画」の送付も滞りなく行われているという状況です。ただ、文章を作るのが目的ではなくて活用することが必要であって、浜井場小学校では特に大変丁寧な「個別の教育支援計画」の利活用が行われているという状況であるというふうに報告がされております。

あとは、若干、将来的にこうなるといいなあということで、5番目に書かれておりますが、「県内他校南信教育事務所特別支援教育担当指導主事であるとか、その他外部人材の紹介や橋かけを教育支援チームで積極的に行いたい」ということと、あとは「教育と福祉、それから医療との連携が進むように働きかけたいということが2学期以降の課題である」というふうに報告をされています。

あと、23ページ以降に、学びサポートチームで「樗」という通信を作って、6月それから7月と発行されておりますので、参考にお読みいただければということでもあります。

説明は以上となります。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

（4）生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて、生涯学習・スポーツ課関係報告事項お願いします。

北澤生涯学習・スポーツ課長お願いします。

◎生涯学習・スポーツ課長（北澤俊規） お願いします。

それではちょっと限られた時間ですので手短にお話させていただきます。資料の3で「わが家の結びタイム」組織協議会の会議を開催しました。

それで、年間の事業計画にあたっての取り組みの確認ということで、三行詩コンクールと、それからポスターコンクール、それぞれ今実施し終えたものと実施しているものがあるんですが、こちらについての取り組みを今行っております。

それで、一次審査については9月に審査を事務局で行って、二次審査の段階になった段階で、定例教育委員会が終わった段階で、教育委員の皆さん、教育長に審査して投票してもら

うという流れでおりますので、その向きでご承知をいただければと思います。

最終決定につきましては、わが家の結いタイム推進協議会の推進委員さんの会議の中で、三行詩、ポスターをご報告ということで決定させていただきました。そんな向きでご承知おきいただければと思います。11月の定例会で報告するつもりでおりますので、またそんなスケジュールでいるということでご承知おきいただければと思います。

それから、次のページ、2ページの中に「飯田市青少年育成センター」ということで、育成センターと、それからPTA合同の青少年啓発活動を実施しました、7月18日。

こちら青少年育成センターにつきましては、教育次長が会長ということで8名のメンバーが参加し、PTAの連合会が28名、それから教育委員会が5名で、店舗については緑ヶ丘中学校区、旭ヶ丘中学校区、鼎中学校区、高陵中学校区、竜東中学校区のそれぞれ5地区について、店舗の協力依頼ということで、主には青少年へのお声掛け、あるいは青少年健全育成協力店のシール、それから、長野県子ども性被害から守る条例パンフレットを配って啓発活動を実施したということであります。

それから、めくっていただいて次のページで資料4番になりますが、飯田やまびこマーチの実行委員会が8月の2日に開催しました。

ポイントだけお話をさせていただきますと、こちらにつきましては参加者数については、2日間で4,476名、昨年4,617名ということで、昨年より減少しましたがけれども、特に県外の参加者とか、あるいは県内の市外の参加者大幅に減った部分はあったんですが、特筆すべきは市内参加者が昨年は3,251人で今回3,847人と大幅に増えたということで、こちらについてはここ数年で非常に多い数字ということで、目的とする「市内の運動習慣の定着」というのには非常に役に立ったというふうに思っています。

それから、もう1点、天龍峡大橋を組み入れるコースについてなんですが、次年度の34回大会では「せっかくウォーク」として実施するというので決まりました。まだ正式なコースを入れるためには下見をしたりとかそういったものを11月までに決定しなきゃいけないので、なかなか少なくとも間に合わないということで、35回の記念大会として常設コースとして準備を進めるということで、またこういった天龍峡大橋を入れた盛り上げをしていきたいというふうに思います。

報告のほうは以上とさせていただきます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（5）公民館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、「公民館関係報告事項」をお願いします。

◎市公民館副館長（秦野高彦） 本日はありません。

（6）文化会館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて、「文化会館関係報告事項」をお願いします。

棚田文化会館館長、お願いします。

◎文化会館長（棚田昭彦） それでは資料5をごらんください。

「人形劇のまちづくり」推進に関する取り組みの8月の報告をさせていただきます。

まず、人形劇の公演事業でございますが、ごらんとおりの公演が行われまして、（3）番、今後の予定でございますが、定期公演を9月22日に開催する予定であります。

続いて2番でございますが、人形劇創造支援事業ということでございますけれども、（2）番の上から3番目になりますが、「伊那谷タイムトラベラーズ」ということで、人形劇活用事業ということで、今年度から取り組んでいる事業でございます。今後も今までのお話づくりの楽しさを伝えるということで、学習から人形劇の場面づくりに今後9月15日開催というふうになっております。

次のページごらんいただきたいと思っております。人形劇フェスタについてでございますが、先ほど教育長からもご報告いただいておりますけれども、（2）番のところ、劇団・スタッフ等の登録状況はこういうような状況になっております。あと、入場者数、基本参加人数等につきましては、現在集計中になっておりますので、また改めてご報告申し上げます。

（3）で、主な取り組みということで、今年度の主な取り組みの要点をこちらのほうに記載させていただいておりますので、またごらんいただきたいと思っております。

次のページでございますが、4番、伝統人形劇芝居の関係では、（2）番、今後の予定ということで、伊那谷人形浄瑠璃の中学生サミットが8月31日に開催を予定しております。

あと、5番で、（2）番、実施済みの事業でございますけれども、川本喜八郎人形美術館のほうで子ども写生大会、127名の方が参加いただいて開催されました。

以上であります。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（7）図書館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて、「図書館関係報告事項」をお願いします。

瀧本中央図書館館長、お願いします。

○中央図書館長（瀧本明子）　　お願いします。資料No. 6をごらんください。図書館から「よむとす事業の報告・予定」ということでお願いいたします。

ただいま夏休みが終わりがけになっておりますけれども、報告ということで四角の線の中をごらんいただきたいと思いますが、夏休みに小学生・中学生が非常に多く図書館を訪れて、夏休みの宿題が主ではありますけれども、一研究や調べ物を行っております。ここに挙げましたものはほんの一部でありますけれども、具体例が幾つか挙げてありますのでごらんいただければと思います。

飯田や下伊那に関する郷土について調べるものと、美博の歴史と飯田出身の美術関係の人ですとか、飯田へ学童疎開がどのくらい来て、どんな生活をしていたかですとか、遺跡や古墳についてや半生菓子歴史など、それから、学校の長野県の夏休みが短いので、全国の都道府県の夏休みの長さを調べたいという要望などもありました。

また、その他の分野では、世界の人種の分布や肌の色はなぜ違うのかとか、話題のマイクロプラスチックのものですとか、回転ずしセットを自分の手で工作として作りたいなど、実にさまざまな興味を持って子どもたちが夏休みを過ごしております。

図書館では、子どもたちのこんな調べたいことをきちんと調べることができるように、一緒に本を探すなどのお手伝いしております。

それから、予定ですが、別紙のチラシを2枚ごらんいただきたいと思います。1つは青いチラシですが、子どもの本の講座ということで、モリナガ・ヨウさんと言いまして、絵本作家の方ですが、イラストを使って図解絵本を作っている方の講演会が8月31日に行われます。

子どもの本がこのチラシのように多いんですけれども、この方、田中芳男の「摺拾帖」と言いまして、こちらの本なんですけれども、田中芳男が集めたスクラップブックのような物、100冊ほどの物が東大の図書館に収められているんですけれども、そのイラストブックを書かれているという方で、どうして田中芳男の「摺拾帖」をイラストブックにしたかというようなお話も含めてお話いただく予定であります。

それから、白い「広報いいだ」をコピーしたものではありませんけれども、「南信州サイエンスクエスト」というもののご案内があります。こちらは図書館だけではなくて、飯田市内の子どもたちに関わる教育関係の施設、こちらに書いてあります動物園ですとか、美術博物館、かわらんべ、下伊那教育会の生物委員会等、7施設が「飯田・下伊那の子どもたちに自然科学への興味の種をまこう」という意識のもと、一緒になって話し合いを行って1ヶ月間イベントを各地で行うということでもあります。大勢の子どもたちに参加していただければと

いうふうに思います。

それから、「よむとす」ではないんですけれども、最後のところに書いてありますけれども、9月22日の日曜日に長姫神社の秋季祭典がありまして、図書館の会館時間が通常ですと午後6時までの開館をしておりますけれども、図書館前の道路が通行止めになるということで、この日のみは5時までということに変更させていただきますのでご了承くださいたいと思います。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

(8) 美術博物館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、「美術博物館関係報告事項」をお願いします。

池戸美術博物館副館長、お願いします。

○美術博物館副館長（池戸通徳） お願いします。お手元にオレンジのチラシと黄色のチラシがあるかと思いますがごらんください。

まず、オレンジのほうであります。美術博物館開館30周年ということで、7月20日、リニューアルオープンいたしまして、おかげさまでこの夏休み期間中は親子連れや団体客で大変にぎわっておりますありがたいと思っております。ぜひお越しいただければというふうに思っているところであります。

その第2弾の講演会が、9月23日、内山節先生、元立教大学大学院教授でございますが、哲学者の内山節先生をお呼びいたしまして、「地域社会について」をテーマにご講演をいただくということで予定しておりますので、ぜひ足を運んでいただきたいなというふうに思います。

そして、それらを含めました9月の「美博ニュース」が黄色のニュースになります。ただいま図書館のほうからも「サイエンスクエスト」がありましたけれども、これらも含めまして9月の予定をずらっと載せてありますので、細かくは申しませんがぜひお越しいただきたい。

特に特徴的なものは、プラネタリウムで「Life いのち」を上映いたします。これは市の保健課と連携をいたしまして、子どもの命の大切さを訴えながら、自殺予防ということも含めまして、命の尊さを今一度みんなで考えようという時間で、それをプラネタリウムで上映をするので、保健課では乳幼児学級にたくさんのご来館があるというふうに予定をされています。ぜひお越しいただきたいと思います。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（９）歴史研究所関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて、「歴史研究所関係報告事項」をお願いします。

小椋歴史研究所副所長、お願いします。

◎歴史研究所副所長（小椋貴彦） それでは、資料のNo. 7をごらんいただきたいと思います。

歴史研究所で行いました、6月・7月分の歴研ゼミ・ワークショップの開催状況をご報告しますのでごらんをいただきたいと思います。

その資料の一番下に、職場体験学習、高校のインターンシップも含めておりますが、5月下旬から7月にかけてごらんいただいておりますとおり、阿智中学校ほか含めて5校、11名の中学生・高校生においでいただいておりますので併せてご報告します。

それから、別冊で資料を2つつけてございます。1つは「歴研ニュース101号」でございます。9月に行われます研究集会等掲載しておりますので、またお目通しいただきたいと思っております。

もう1つが、白黒のチラシですが「飯田アカデミア第88講座」ということで、10月5日に上郷公民館で開催いたします。今回は建築の関係でございまして、東京大学の加藤耕一さんをお招きしまして、「時間が生み出す建築の魅力 ヨーロッパに学ぶ建築リノベーションの歴史」ということでご講義いただきます。また、もしよければご出席いただければありがたいと思っております。

以上でございます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいま学校教育課から歴史研究所まで報告事項がありましたが、ご質問・ご意見等あればお願いします。

伊藤教育委員、お願いします。

◇教育委員（伊藤 昇） 図書館のことで、図書館できょうの報告事項とは全く関係ないんですけども、駐車場の件ですけども、手狭で困っているんですけども、土日は合庁のほうが、一応あれは正式にいいんですかね。何かちょっと気兼ねしながら置くような。

○教育長（代田昭久） 瀧本中央図書館館長。

◎中央図書館長（瀧本明子） 土日は合庁も使っていただけるように、正式に大丈夫です。平日は美術博物館も一緒に使わせてもらっていて、土日はもちろんですけど使わせていただいて。

◇教育委員（伊藤 昇） 要するに、図書館も非常に人が集まって人気があつていいんで、何を言いたいかという駐車場の整備を、整備というか駐車場が欲しいなという思いがあるということで、これは美博のリニューアルして、今回、リニューアルの式に行ったときそう思ったんですけども、皆さんたち苦勞していると思うんですけど、この辺は県とのいろいろな絡みもいろいろあろうかと思えますけれども、ぜひ進めていただきたい。

また、美博がリニューアルされて、またあの文教地区っていうの、入り口のところ、考えていただきたいなとそういうふうに思います。そう簡単にできる話ではないですけども、一応意見として。

○教育長（代田昭久） わかりました。じゃあ聞き置くということで、そういったご発言があることをしっかりと受け止めたいというふうに思います。

ありがとうございました。

ほかにはいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

（10）今後の日程について

○教育長（代田昭久） それでは、今後の日程についてお願いします。

滝沢学校教育課長補佐、お願いします。

◎学校教育課長補佐（滝沢拓洋） それでは、定例会の会議資料の3ページをごらんいただきたいと思えます。

今後の日程ということで主なものについて記載をしてございます。

9月は、教育課程研究会、先ほど学校教育専門幹から説明をいたしました。それから、県の主幹指導主事の学校訪問帯同、9月の末におきまして今年度の学校訪問を開始をさせていただきたいと思えますのでよろしくお願ひいたします。詳細は、また教育委員さんのみに配布させていただいておりますが、ご確認をいただきたいと思えます。

また、先ほどの協議会の資料の最後のページに、例年お願ひをしております運動会、文化祭についての出席の計画をいたしましたのでご確認をいただきたいと思えます。変更等ございましたら私まで連絡をいただければと思えます。

この件につきましては以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

9月・10月、学校訪問等ありますが、よろしくお願ひいたします。

全体を通じて、何かご発言ある方いらっしゃいますでしょうか。

よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

日程第10 閉会

○教育長（代田昭久） それでは、日程第10。

以上をもちまして、8月定例会を終了させていただきます。

本日は、どうもありがとうございました。

閉会 午後4時30分